
モンスター・ハンター 少年の大戦記

ぱんどら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスター・ハンター 少年の大戦記

【Zコード】

Z2943M

【作者名】

ぱんぢり

【あらすじ】

とある雪の日で、とある“家族”に事件が起こった

それは風のようにやってきて風のよつに去

つていった・・・

その家族の唯一の生き残りである「ヤマト」は田の前で
父、母を殺され“なぜか生き残ってしまった”子供

復讐か、それ

とも別の人生を歩むのか・・・？

今より、ヤマトの戦記が開かれる

プロローグ

賑やかな村

笑顔溢れる家族

「よひへ、坊主ー・ど！」行くんだい？」

「んつとね、父ちゃんと母ちゃんと一緒に 村に遊びにいくんだー！」

「よかつたなーー・こつぱに楽しんだー」とよー・

「うそー・」

父ちゃんと母ちゃんと一緒に暮らす幸せな未来

「二つ これまーかー・

「飯をつむぐよー・」

だが現実とは「」なんものの

「おこー。…母ちゃん守るんだねー。?」

「へ、うん・・・」

「父ちゃんが護つてやるから心配するなー。」

「大丈夫よ。この子はアナタに似て強いから・・ね?」

「はは、やうだな」

不幸は”今”が幸せなほど残酷にやつてくる

「ぐあ・・・!?

「アナタ!」

「いいから・・隠れてる・・・」

父さんを貫く黒い物体

「この子に手を出せなこでー。」

「か・・母ちゃん・・」

消えていく大切な人

「に・・逃げて・・」

「あ・・あ・・」

俺は忘れないだろう
あの光景

そして・・

黒い剣を背負つた憎き剣士を

プロローグ（後書き）

こんにちわ。ぱんじりです（。・。）

んー・・・。
文章力が皆無なんですよねー・・・。

多分これから絶対に誤字、脱字があるのでGANGAN指摘して下
さいね（ - - ）b

旅、危機、そして・・・

嫌な夢を見た

猛吹雪の中、なにもできずにただの「光景」みていろしかできなかつた過去のでせ!』と

「はあ・・・」

少年は深いため息を吐いた

あの夢をみると嫌な気分になる

少年は馬車に取りつけられてる座席に横になっていた

いつの間にか寝てしまったのか・・・

「おこ、兄ちやん」

運転手の「おこちやん」が話しかけてきた

「すまねえが今日中にはつかねえかもしんねえなあ」

おこちやんは申し訳なさそうな声色で言った

「ああ、気にしないで。別に急いでるわけでもないからせ

おこちやんは「申し訳ねえ」と言こ念話を打ち切った

俺は今、自分の生活の拠点となる”村”に向かっていた

ガタン、ゴトン・・・

馬車は心地良い揺れをしていた

外を見ると左右は高い草木で覆われていた

まだ公道か・・

公道とは道路にあたいる

「もう一度寝るか」と考えたがまた”あの夢”を見そうで眠気が失せた

そう考えていた矢先、

「んおつー?」

おひやんの唸り声が鳴ったとたんに馬車急に止まった

ギキイイイイー・・!-!

嫌な音が響く

ガタン・・・！バタバタ・・・

前の座席に荷物ごと吹っ飛ばされた

「つ痛・・おっちゃん大丈夫・・？」

頭を軽く打つたがほかに外傷はないようだ

「大丈夫大丈夫・・・兄ちゃんは大丈夫かい？」

おっちゃんも俺と同じく軽く頭を打つただけみたいだな

「俺は大丈夫だよ。それよりどうかしたの？」

「いやなあ・・今、前を小さなモノが急に横切つてきたんでえ・・

「小さなモノ？」

ガサ・・ガサ・・

隣の茂みから物音が聞こえた

「んー・・？」

ガサガサツ！・・ガシツ！

物陰からでてきた物体が抱きついてきた

「うわー！」

危うくバランスを崩して転びそうになる

よくみると猫のような生き物が下腹あたりに抱きついていた

「え・・・? 猫・・・?」

突然としてると猫がこちらを向いてこう言い放つた

「助けてトセコーやー！」

— — —

え？ 猫つてしゃべんの？

・・・・・ いやこれだけは言おう

「猫がしゃべった！？」

「ああ、おひさしぶりの猫つて感じがする？」

「いやああらし江戸わかれましてもお・・・」

あのー・・・」

- 1 -

少年は手を顎に当て考え始めた

「あのー・・・ちょっと聞いてますかーヤー?」

「いや聞いてる……うわーー懲りじゃべんなー。」

」アー・・・(- A')」

「少しひどくないですかい・・・？」

まあいいや・・そりいえばなんでコイツ急に現れたんだ?

「なあ、なんで急に・・・」

言いかけたその時

「……」「、後ろ……」

おひちゃんが叫んだ

「え・・?」

少年が振り向いた瞬間、

ドゴッ……

少年は鈍い音と共に転げ飛んだ

「——や——や——も、もつ来たの——や——」

「お、おこ兄ちやん……しつかり——」

おひちゃんが駆け寄ってきた

「……」

畜生、なんだつてんだ・・?

上半身を起こした瞬間

「ぐああー!?」

「…………?…………おうちやん…………」

ド・カ・ジ

おっちゃんは血を流しながら無造作に倒れた

—
! ?

「……」

おっちゃんの後ろに立っていたのは

鋭い爪、蒼い鱗に覆われた鳥竜種

【ランポス】 だつた

第3話

卷之三

いつの間にか隣にいた猫がガタガタと震えていた

- · · お 前 お し

少年は小声で呼んだ

「ヤー? は、これでやー!」

「シッ！ 静かにしろ……！」

— • • • ! !

猫は手を口にあて、頭を何度も振って答えた

とにかく現状を回避しなきゃな。。。

「いか……？ よく體力

- . . . ?

「馬車の中に俺の武器が置いてある。それを取りに行つてきてくれ」

「で、でも・・・」

「幸い向こうは”1匹”しか居ないんだ。俺が囮になるからその隙に頼む・・・」

「わ、わかったニヤー」

「んじやー頼んだぞー」

やつぱりと、ランポスに突貫した

「氣をつかへーヤー」

「グルル・・・」

ランポスは喉を鳴らしながら少年を威嚇している

「・・・」

少年もランポスから田を離れないでジロジロと近寄った

少年はあることを想えていた

そもそも「」いつが1匹で行動するか？

「否」

仲間と逸れた？

「…いやその可能性は低いだろうな」

どうかに親玉がいて指示でもだしてんのか?

「多分そうだらうね・・・」

「……」

「！」

ランポスは目測で3～4mはある距離を跳躍し、少年めがけて襲つてきた

「ツチ・・！」

とつさに横に避けた

「ナナナナナナナナナナ」

今度は前足の鋭い爪で襲ってきた

「なんども襲われてたまるかよつ！・・・と、オラア・・・・・」

また横に避け、今度はランポスの横腹めがけて思いつきり殴った

「ゴッ・・・！」

「ギャア・・・！」

殴った鈍い音とランポスの悲鳴が鳴る。

だが多少ひるんだ程度で毛ほどもダメージを負つたよつこは見えない

「ひるみもしないか・・・！」

バックステップして距離を取る

「まじまじ、よそ見すんなよー、じつだけ意識を集中しとかー・・・」

「うだ、じつだけ見ろー・

「ギャギャーー！」

少年の命を狙つてまたもやランポスは襲う

その頃

「 ベ、ベ、ある、ヤー。」

猫は馬車の中をくまなく探ししていた

「 ?」

その時、”長い紫色の布袋”が田に入った

「 ハ、これか、ヤ・・・?」

手ひとつてみた

「 お、重つ・・・!?

「 今行へ、ヤー!」

びつむひるの重さは当たつてひつて

馬車から降りよつとした、その時

・・・・ガサツ！ガサツ！

「 一、ヤー、ヤー！?

すぐ横の茂みからかなり小さいが何モノかの足音が聞こえた

シーン・・・・・

音が聞こえなくなる

「ま、まさか・・まだほかにも・・」

猫は身の危険を感じすぐさま馬車から降り、少年のところに向かった

「よつ・・・・・せつ・・・・・つと・・・・・ウツツア・・・・・

「ギヤギヤーー！」

ランポスからくる攻撃は紙一重で避け、隙が大きいといひに拳を打つ

「ハア・・・」こんなヒットアンドアウォイ戦法じゃ逃げてなんかくれないよな・・・」

ヒットアンドアウォイは数回攻撃してすぐに距離をとるため、大ぶりでは意味がない

しかも相手に与えるダメージはとても少ないので長期戦になりやすい

だが長期戦をするならともかく有意義な戦法である

「ヒットアンドアウォイ・・・！」

馬車から駆け寄つてくる声が聞こえた

「持つてきたニヤーーーーーーーー！」

猫がよろよろと走ってきた

「おーそれをはやくひっつかう・・・」

集中が一瞬散漫した

「ギヤギヤーーーーーーーー！」

その”一瞬”をランボスは逃さなかつた

ビシッ！――

鞭のような尻尾が少年を吹き飛ばす

「ぐはっ！！」

吹き飛ばされ地面を転げる

「くそ・・・！」

折れてはいないとと思うが、さすがは”モンスター”の攻撃
人間にとって、たかが”小型種”の攻撃でも死の危険性がある

「あ、危ない・・・！」

「ギヤギヤツ！・・・！」

猫が叫ぶと同時に、ランポスが追いうちに、鋭い爪を光らせ飛び込
んできた

「投げる！..」

少年が倒れながら猫に言った

「えいっ！..」

ブン！..と力のかぎり投げた

「せつ！」

ザシュー！

転がりながらランポスの攻撃を避ける

「どうやあああ……」

綺麗に横を向きながら飛んでくる自分の“愛刀”めがけて飛びついた
ガシッ！

ギリギリのところでつかんで見せた

ハハシャ！

「さあて、猛反撃の始まりと行きましょうかー！」

”長い紫色の布袋”の紐をとつて中から武器を取りだした

中から取り出した武器は

細く、そして長い

だが決して太刀のような長く太いわけではない

しかし片手剣のように小さいわけでもない

そう、平たく言えば【鉄刀】を少し細し、短くしたような形状だつ
た

第4話（後書き）

「ここにて改めて「お詫びを申し上げます。

「んにちわ、ぱんざらと申します（へへへ）

補足ですが、猫の聴覚は人間の約4倍と言われています。
なのであの時に聞いた物音は相当遠い物音になります。

え？なんで説明してるかって？そりやあ説明しなきゃいけないとこ
ろなのですよ（笑）俗にいう伏線ですね、ハイ

ちなみに最後にでた武器は「存知の通り【日本刀】ですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2943m/>

モンスターハンター 少年の大戦記

2010年10月14日12時10分発行